

ワシントン情勢 120507 (サンプル)

Sunrock Institute



今回はスマート・パワーに関連した話題をお届けします。米国の超党派の外交・安保専門家グループが、次期政権が実行すべき外交政策の指針を示したスマート・パワーの提案に関しては次ぎをご参照：<http://www.csissmartpower.org/>

師走の声を聞くと当地でも忘年会シーズンの到来。昨日は日本大使公邸で恒例の天皇誕生日記念レセプションがありました。これは天皇陛下の誕生日がクリスマス休暇と重なるので、例年早めているのですが、今年は招待客が倍近い大入り満員。正面玄関前の駐車場には各国大使専用車が並んで壮観。何となく在任6年目を過ぎた加藤大使が最後に主催す



る大パーティといった趣もありました。ともあれ、最近当地ではソフト・パワーを発展させたスマート・パワーや、フリー・トレードを進化させたスマート・トレードが話題ですが、世界に冠たる日本の皇室の存在も本来は日本のスマート・パワーといえるのではないのでしょうか。

ところが、当方を含めて日本人は余り重視していないと思ったのは、ごった返す人混みの中からノーマン・ミネタ前運輸長官が近づいてきて、小声で「天皇陛下は幾つになられるの?」と聞かれた際に返答できなかったこと。回りにいた日本人全員に尋ねて何とか「エーと、72歳くらい」と答えると、「良かった。折角お祝いするのだから、幾つになられるかは知っておきたかった。それで、皇后陛下はお幾つだっけ?」と言われて、これには絶句。ひたすら恥じ入るばかりで、帰宅してから宮内庁のホームページなどで調べてメールを流したら、即、ミネタさんから日本語の丁寧なお返事が来ました。日系米国人として誇りを失わない姿勢には頭が下がります。ちなみに天皇・皇后両陛下は本日現在ではともに73歳。

バージニア州タイソズ・コーナーで12月4日に行われた米エネルギー省(DOE)主催の事業化機会フォーラムに参加しました。エネルギー・環境関連でDOEが研究補助金(SBIR/Small Business

Innovation Research Program)を支援している中小企業を一同に集め、短時間の個別プレゼンと全体のネットワーキングの機会を提供するもので参加者は約300名。その内、政府関係者は50名。タイソンス・コーナーはダレス国際空港にも近く、ITバブル時代には日系企業もサテライト・オフィスを構えていた程のICT関連の集積地で、今回は32社が個別のプレゼンを行いました。元々、米国政府は冷戦以後、軍民転換技術の商業化を積極的に支援しており、各省庁(国防総省、エネルギー省、国土安全保障省)では、核不拡散防止やクリーン・エネルギーなどの名目で小額の研究補助金を出しています。

そして基礎研究で実用化の目処が立つと、商業化を目指して企業・投資家との会合を開いて、投資や企業連携の機会を与える段取り。各省庁では安全保障やエネルギー効率、環境保全を推進するという政策目標を民間活力で実行するだけでなく、事業形態によってはロイヤリティなどの配当収益も要求する柔軟な官民連携体制。注目の先端技術分野に関わるだけに、中小企業の開発責任者、政府関係者には印度・中国系米国人が多いのが目に付きました。ここでも日本の影が薄いのが気になります。

話題は変わって、当方の「日米官民協調による対ベトナム・エイズ支援」の追加です。

<http://www.sojitz.com/jp/news/2007/071126.html>

週末にワシントン市内を車で走り抜けていましたら、ホワイトハウスの北玄関に巨大な真紅のリボンが吊るされており、ライトアップでとても幻想的でした。これは12月1日の世界エイズデーに合わせて、2日間だけ吊るされたりボンで、長さは28FT(約8.4M)。

それに合わせローラ・ブッシュ夫人が1日のワシントンポスト紙にエイズ対策に超党派の取組みを呼びかける提案を投稿しました。ローラ夫人が公で意見を述べるのは、主にミャンマーの人権擁護がエイズ対策といった人道的なテーマに限られています。

<http://www.whitehouse.gov/news/releases/2007/12/20071201-1.html>

今回の記事には、来年初頭にブッシュ大統領はサハラ砂漠以南のエイズ感染重点諸国を訪問する予定があることに加え、ブッシュ大統領が世界中のHIV/AIDS感染治療に対して予算増を議会に要求したことが書かれています。2003年から5年間の150億ドルに対する増額要求なので、総額は来年からの5年間に300億ドル(約3兆3千億円)。これは日本が出し渋っている世界銀行からの増資要請の出資額6000億円を毎年5年間、国際エイズ対策だけに提供することを意味します。

そんな人道的な取組みですが、それでも抗議の声は上がります。対外的なエイズ対策が予防効果を挙げつつある一方で、米国内では逆に感染者が増えているからです。しかも、ワシントンが最悪。しかしその対策となると米国内は麻薬使用者が大半であり、エイズ患者の拡散予防のために、麻薬を打つ注射針の無料交換を税金にて賄うかどうかという政治的には難しい問題。二の足を踏む当局と、あくまでも人道的配慮優先を主張する NGO とで一大論争になっています。そんな中でもいかにもアメリカ人らしいと思ったのは、巨大な真紅のリボンをテープに見立て、ホワイトハウス前のラファイエット広場に集まった NGO 抗議団体は「お役所意識をぶっ飛ばせ！」(Cut the Red Tape!)と連呼して、マスコミで大きな扱いとなりました。これなどは日本の野党関係者にも聞かせたくなるスマートな戦術です。

最近のワシントンの動きに関しては以下もご参考まで。これは著作権の問題がありますので、取り扱いにはご注意下さい。

ワシントン 多田幸雄